

商店街への回遊を意識した図書館の在り方

小池 孝子

中津川市立図書館

1. はじめに

平成 24 年（2012）、当市では、新図書館建設が市を二分する市長のリコール運動にまで発展し、本体工事が着工されていたが、建設は中止となり、更地となった。これをきっかけに、中津川市立図書館（以下、市立図書館という）は、新しいハード（建物）はできなかったが、ソフト（内容）を充実させていこうと、市民ボランティアと図書館が両輪となり、様々な読書推進活動を展開してきた。

そして、平成 30 年（2018）、中心市街地活性化事業として、前回の建設地と同じ場所に「学び」「子育て」「市民協働」「観光」の 4 つの機能が融合する、複合施設（仮称）市民交流プラザが建設されることとなり、「学び」機能として、市立図書館は移転することとなった。

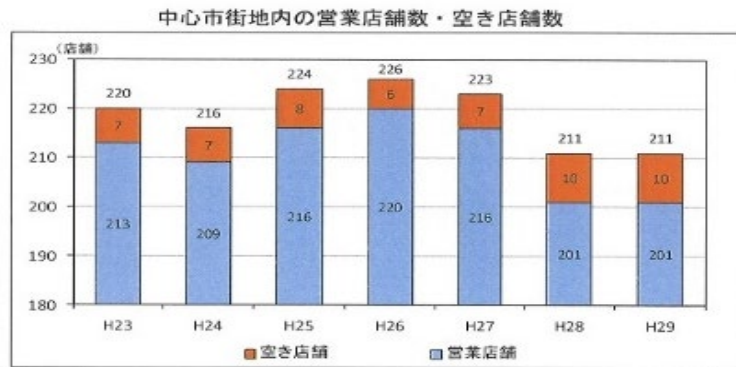
現在、令和 5 年（2023）夏の開館に向け、市政策推進部まちづくり推進室と市立図書館が両輪となって事業を進めている。そこで、中心市街地へ移転し、市立図書館は、地域の活性化の為にどのようなサービス、支援を行っていくかを考察する。

2. 中心市街地の現状と課題

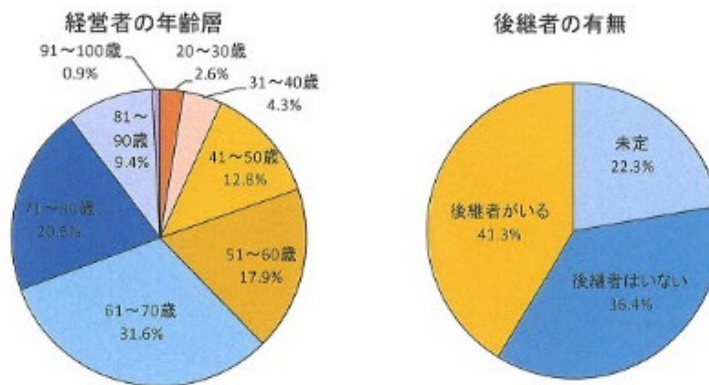
（1）商店街

本市の中心市街地では、大規模店舗の相次ぐ閉店や、中心市街地内の店舗がバイパス沿いに転地するケースや後継者不足により、各個人店が減少しており、歩行者の通行量も減少し、商店街の衰退の要因となっている。また、閉店した店舗等用地が空き地となり、にぎわいの喪失にもつながっている。そのため、中心市街地の核となる施設の充実、商店街へ人を呼び込むような施設や仕組み、あるいは、訪れたいくなるような景観・街並みを形成すると共に空き店舗を削減し、魅力ある商店街を形成していくことが求められている。⁽¹⁾

平成 30 年（2017）より、本市のまちづくり会社「㈱まちなカラボ」が主となり、「まちゼミ」を開催し、まちの活性化の新たな取り組みも始めている。



※西太田町通り、駅前、新町、本町の商店街振興組合並びに東太田町、緑町、花菱町の発展会を含む中心市街地全域内における毎年3月末の営業店舗数・空き店舗数
資料：中津川市調べ



※資料：中津川市中心市街地アンケート (H25. 6. 30 現在)

『中津川市中心市街地活性化基本計画 R33.12.変更』(2021) より

(2) 歴史文化を活用した取り組み

本市の中心市街地は、中山道宿場町「中津川宿」を起源に、発展してきた。当時の面影、建築様式を残す商家や民家があり、歴史的景観を継承する商店街もある一方、市立図書館が移転する(仮称)市民交流プラザが位置する新町商店街は、当時の面影はあまりない。

江戸時代に行われていた「市」を模して、現代風に復活させた「六斎市」を平成20年(2007)より毎月第1日曜日に開催、日本画壇の重鎮「前田青邨生誕の地」、新たに「杉原千畝」が幼少期に過ごした痕跡が見つかるなど、こうした新たな話題や観光資源の掘り起こしとともに、歴史文化を活用した取り組みを進めている。

また、まちなか観光に向けた取組として、平成30年(2017)2月に中津川宿のかつての様子や歩んできた歴史を紐解きながら巡る「古地図散歩」ツアーを「中心市街地活性化協議会」が企画し参加者を募ったところ、定員20名に対し市内外から120名余の応募があるなど、中津川宿の歴史文化的資源の潜在的価値や魅力の高さを改めて感じる機会となった。今後は定期的に持続可能な事業として昇華を図るため、企画面、運営面で関係者が連

携し、まちなかへの観光客入込数の増加とまちなかでの消費につなげる仕組みを組み立てていくこととしている。(2)

3. 地域の活性化に図書館ができること

(1) 他市の事例

①調布市立図書館

・まちゼミ支援

商店街が開催する「まちゼミ」(店の人が講師となって、専門店ならではの知識や情報、コツを無料で伝える、街の中の少人数ゼミナール)を図書館が支援。講師となる店の人向けにブックリストを作成し、情報を提供する。また、館内にまちゼミブックリストと書籍の展示コーナーを設置。(3)

②沖縄市立図書館

～新たな拠点がコミュニティーを作り出し、まちに新たな人の流れを作る～

・まちライブラリー

店やカフェ、オフィスなどのちょっとしたスペースに、店長や経営者、スタッフのお気に入りの本を展示し、訪れた人に自由に読んでもらい、本を通じた会話を楽しんでもらう取り組み。

本との出会い、人とふれあう交流型の図書館を商店街内に設置し、図書館を利用する本好きの方々へ、本の感想を共有する仕組みと場を提供することで、商店街に人を呼び込む。(4)

③滝川市立図書館

・まちなかコンシェルジュ

市民活動を活性化しまちを盛り上げることを目的とした「まちなか連携事業」の一環として、滝川市内のお店や団体・サークルを利用者の皆様に紹介する「まちなかコンシェルジュ」という展示コーナーを設けている。(5)

(2) 市立図書館の場合

今回の講習を受け、当市と同じような状況にある地方都市、商店街、図書館が多く存在することを、改めて知ることができた。

現在、市立図書館は、まちの方たち、商店街の方たちとのつながりが無い。今年度、中心市街地で、毎月第1日曜日に開催される「六斎市」に、市立図書館ブースを出店し、新しい複合施設のPR、図書館の絵本や本をおいて、自由に見てもらおう「青空図書館」を行い、これが、市立図書館が「まちにでる」最初の一步となっている。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響により、中止になることも多く、定着していない。

ところで、商店街の方たちはどう思っているのだろうか。新しい複合施設が起爆剤となり、商店街も一緒に盛り上げていくという機運を今から高めることが必要である。

そこで、今からできること、開館してからできることに分けて事業を提案する。

①新しい複合施設が開館する前にできること ～つながる、感じる～

・まち歩きワークショップ

まずは、まちの方たち、商店街、市立図書館の思いを共有し、同じ方向を向くようにする為、商店街の店主、図書館司書を対象としたワークショップを開催する。

市が主催すると、ともすると「住民説明会」のようなものになってしまう恐れがあるので、まちづくり会社「㈱まちなカラボ」やまちづくりに精通したファシリテーターをいれ、ワークショップで知恵を出し合い、まちを一緒に歩き、まちや歴史文化の再発見、意見交流、思いの共有を図る。市立図書館は参加者でもありながら、関係資料の提供、展示、情報発信を担当し、存在のアピールにも努める。

さらに、このまち歩きワークショップは、商店街への回遊を目的に、対象を一般の方にして開催し、歴史文化の再発見、まちマップづくり、WikipediaTown などへと、発展させていくことも可能である。

・軒先図書館、店主おすすめ本棚

今回の講習で、「まちゼミ支援」について学び、講師となる店の人向けにブックリストを作成し、情報を提供するという取り組みを参考に、情報提供に加え、図書館から本や資料を配本し、店の軒先に展示してもらう。市立図書館の資料でなくても、ご自分がおすすめする本を展示し、本を介した対話をお客さんとしてもらう。店にお任せするのではなく、司書が“御用聞き”のように店を訪ね、店からの要望や提案を受けるなど、メンテナンス、そして情報発信を継続的に行う。

②新しい複合施設が開館した後にできること ～つなぐ、協働する～

・コラボ企画 「〇〇×図書館」

複合施設への来館者が商店街へ回遊する仕掛けとして、商店街と共催して、イベントや講座を企画し、開催する。

スポーツ用品店×図書館で「まちなカウオーキング」

八百屋×図書館で「食育講座とクッキング」

和菓子屋×図書館で「栗菓子の歴史と栗きんとんづくり体験」

郵便局×図書館で「あなたのおすすめ本をはがきを書いて送ろう」

銀行×図書館で「遺言状の書き方」 など

開催場所が複合施設内の施設と店の両方を使用する内容となるような工夫をする。

また、まちゼミのように、一斉に行くと、図書館への負担がかなりかかってしまうので、分散開催が現実的である。

・まちと図書館つなぐ・つながるコンシェルジュ

商店街と市立図書館が、つながり、お互いを感じ、協働してきたことを継続し、また、日常的に自然に商店街へ回遊するような流れをつくっていくよう、コンシェルジュを配置する。また、館内に「まちと図書館つなぐ・つながるコーナー」を設置し、まちマップやパンフレット、今までの活動、取組みなどを見える化し、情報発信をしていく。

コンシェルジュとなる司書は、館内の案内だけでなく、家族連れで利用できる飲食店の案内や商店街やまちの歴史文化などの案内もできるよう、積極的にまちなかを利用し研究することが必要となり、市立図書館の司書として、広い見識を持つことで、サービスの幅を広げていくことを目指す。

4. 実施、実現に向けて

①連携先

まずは、新しい複合施設の真ん前に位置するまちづくり会社「㈱まちなカラボ」と連携することが最優先である。「まちゼミ」、「六斎市」などを行ってきているまちなカラボが持つノウハウや経験と図書館の情報の蓄積、収集力を生かし、また、外部とのつながりを強化することで、多くの「ひと、もの、こと」を巻き込んでいくことができる。

また、商工会議所、まちづくり協議会、市役所の各部署など、志を共にする方たちの理解と連携も重要である。

②図書館司書の意識

この事業は、どれだけ市立図書館が主体的に動くかが肝である。司書がまちへ出て、顔が見える付き合い、寄り添った支援、時代の風を肌で感じることであれば、司書の意識も変わり、自身の仕事に誇りと自信を持って取り組むきっかけになるのではないかと。

常世田理事長の「新しい取り組みにより、図書館員の意識が変わる！」⁽⁶⁾というフレーズを信じたい。

5. おわりに

今回の講習で講師の方から学んだ事例や、アドバイザーの小廣さん、2班の皆さん方からの助言を参考に、商店街への回遊を意識した図書館での取り組みについて、自分なりに考えてきた。これらを実施し実現していくには、ひとりだけで考えるより仲間と、図書館の中だけで考えるより外の人と、という思いが一層強くなった。

実施実現には、予算、人、時間など、様々な困難、道のりがあるだろう。しかし、中津川市立図書館は、新しい施設への移転という、絶好のチャンスがある。この好機を逃すと、このまま図書館は「本の館」で過ぎていってしまう。時代の変化に危機感を持った職員はどれ程いるのだろうか。

最後に、豊田講師の資料にある「地域はいま、図書館を必要としている」⁽⁷⁾と言われる図書館となるよう、歩みを止めず、一步一步前へ進んでいきたい。

参考・引用

- (1) 中津川市役所商工観光部商業振興課 『中津川市中心市街地活性化基本計画 (R3.3.12 変更版) 【概要版】』、2021 年
- (2) 岐阜県中津川市 『中津川市中心市街地活性化基本計画 R3.3.12 変更』、2021 年
- (3) 東京都調布市、<https://www.lib.city.chofu.tokyo.jp/contents?5&pid=236>、令和 4 年 3 月 7 日アクセス
- (4) 沖縄県沖縄市、<https://www.city.okinawa.okinawa.jp/lib/about/machinaka/>、令和 4 年 3 月 7 日アクセス
- (5) 北海道滝川市、<https://lib.city.takikawa.hokkaido.jp/machinaka-concierge/>、令和 4 年 3 月 7 日アクセス
- (6) 常世田良 『第 21 回ビジネスライブラリアン講習会 まとめ—再考：図書館員の意識改革』、2022 年
- (7) 豊田恭子 『第 21 回ビジネスライブラリアン講習会 オンデマンド資料 アメリカの公共図書館におけるビジネス支援サービスの最新動向』、2022 年